



東海厚発0117第28号
平成25年1月21日

東海北陸厚生局管内
基幹型臨床研修病院長 様
医科大学（医学部）附属病院長 様
いわてイーハトーヴ臨床研修病院群関係者 様

東海北陸厚生局長



「被災地域（岩手県）における地域医療研修（被災地研修プログラム
運用モデル事業）の実施について」の一部改正について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受け、岩手県の被災地域における地域医療研修については、「被災地域（岩手県）における地域医療研修（被災地研修プログラム運用モデル事業）の実施について」（平成23年6月27日付け東海厚発0627第49号。以下「通知」という。）により、東海北陸厚生局管内基幹型相当大学病院および基幹型臨床研修病院（以下「基幹型臨床研修病院等」とする。）および、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群関係者に通知し、研修運用のモデル事業として実施しているところであるが、今般、別紙のとおり通知の一部を改正し、実施期間を25年度研修開始プログラムの研修医（平成27年3月31日）まで延長することとしたので、貴職におかれては、改正の内容について御了知の上、関係部署に周知方願いたい。

被災地研修プログラム運用モデル事業

1 概要

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け、岩手県における地域医療研修について、被災地域における研修運用のモデル事業として実施しようとするもの。

なお、本モデル事業については、厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室と調整済みである

2 目的

岩手県における医療（基幹型臨床研修病院等での研修以外に、被災地域での医療や公衆衛生活動も含む）を研修医に経験させることにより、医療の果たすべき社会的役割を認識し、医師としての更なる人格のかん養を図る。また、研修プログラムを事前審査することにより、基幹型臨床研修病院等および被災地域受入医療機関にかかる事務手続き負担を簡便化する。

3 実施方法

(1) 研修場所

岩手県に所在する医療機関とし、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群が決定する。

原則として基幹型臨床研修病院等（別紙 1）とするが、必要に応じて、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群（岩手県医師支援推進室）が調整する。

(2) 実施期間

平成 23 年 7 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までとする。

（平成 25 年度開始プログラムでの 2 年次の研修医までが対象。）

ただし、運用状況により次年度以降の実施を判断するものであること。研修医一人あたりの研修実施期間は 1 ヶ月以上を原則とするが、状況により調整することができる。

(3) 研修を行う分野

研修プログラムの「地域医療研修」と位置付ける。

(4) 対象者

東海北陸厚生局管内の基幹型相当大学病院および基幹型臨床研修病院

等所属の研修医（原則として2年次）のうち本モデル事業による研修を希望する者。

(5) 研修内容及び評価

受入医療機関は、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群で行われている研修内容・評価方法に準じ適切に評価を行い、派遣を行う基幹型病院（以下、派遣病院という。）と評価を共有するものとする。（別紙2参照）

(6) 手続き方法（運用の流れ）

- ① 研修医の派遣を希望する東海北陸厚生局管内の基幹型臨床研修病院等は、希望する派遣内容を東海北陸厚生局に報告する。（別紙4）
- ② 東海北陸厚生局は、管内の基幹型臨床研修病院等について、派遣の希望を把握、リストを作成し、随時更新する。（別紙4）
- ③ いわてイーハトーヴ臨床研修病院群は、岩手県に所在する基幹型臨床研修病院等の受入可能研修医数を把握する（別紙3）。
- ④ 東海北陸厚生局は、派遣病院リスト（別紙4）をいわてイーハトーヴ臨床研修病院群に情報提供し、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群は派遣病院リストを基に受入医療機関を調整する。
- ⑤ 受入医療機関は、派遣病院と受入内容について協議する。
- ⑥ 受入医療機関が決定した場合、派遣病院は東海北陸厚生局に連絡する。

また、派遣実態により、必要に応じて病院変更届を行う。

4 運用にあたっての留意事項

(1) 連携体制等

受入医療機関と派遣病院との連携体制は、臨床研修制度の法令等に則して適切に病院群を構成すること。

(2) 派遣病院における研修プログラム

地域医療研修の一環として実施するものであるが、選択科の研修期間も利用可能であること。

なお、必要があると認める場合においては、随時病院変更届を行うこと。

○問い合わせ先

〒461-0011

名古屋市東区白壁一丁目15番1 名古屋合同庁舎第3号館
東海北陸厚生局 健康福祉部 医事課 臨床研修係

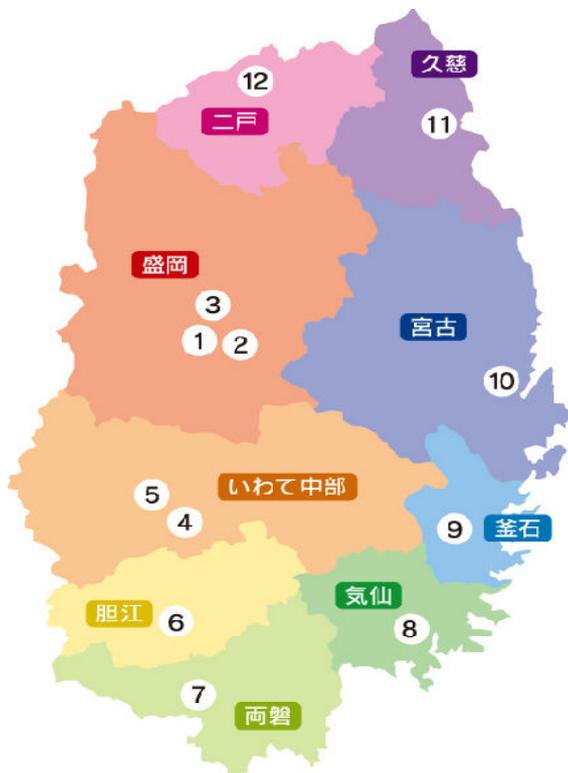
電話 052-971-8836 Fax : 052-971-8876

いわてイーハートーヴ臨床研修病院群
基幹型臨床研修病院一覧

H25.1.21現在

通番	病院名	地図 No.	所在地			宿泊施設	経費支給		研修医の状況				担当者	
			〒	住所	TEL		基本給	往復旅費 (派遣元が受入 機関)	年次	定数	在籍数	空数	所属・氏名	メールアドレス
1	岩手県立大船渡病院	⑧	022-8512	大船渡市大船渡町字 山馬越10-1	0192-26-1111	公舎あり (要相談)	なし	なし	1年	6	1	5	事務局次長	yoshinori- kikuchi@pref.iwate.jp
									2年	6	5	1	菊池 好徳	
2	岩手県立釜石病院	⑨	026-8550	釜石市甲子町10- 483-6	0193-25-2011	公舎あり	なし	なし	1年	4	2	2	事務局次長	jun- imori@pref.iwate.jp
									2年	4	0	4	飯森 淳	
3	岩手県立宮古病院	⑩	027-0096	宮古市崎鍬ヶ崎1- 11-26	0193-62-4011	公舎あり (要相談)	なし	なし	1年	5	2	3	事務局次長	takashi- matsudate@pref.iwate.jp
									2年	5	1	4	松館 隆	
4	岩手県立久慈病院	⑪	028-8040	久慈市旭町10-1	0194-53-6131	公舎あり	なし	なし	1年	8	5	3	事務局	ryuichi- kamada@pref.iwate.jp
									2年	7	6	1	鎌田・高際	
5	岩手県立二戸病院	⑫	028-6193	二戸市堀野字大川原 毛38-2	0195-23-2191	公舎あり	なし	なし	1年	5	5	0	総務課	masashi- f@pref.iwate.jp
									2年	4	4	0	藤澤 正志	
6	盛岡赤十字病院	②	020-8560	盛岡市三本柳6-1-1	019-637-3111	公舎なし (要相談)	なし	なし	1年	10	5	5	総務課	kenshu@morioka.jrc.or.jp
									2年	10	8	2	佐藤 敬之	
7	岩手県立中央病院	③	020-0066	盛岡市上田一丁目4- 1	019-653-1151	公舎あり	なし	なし	1年	19	18	1	業務企画室	m-kitada@pref.iwate.jp
									2年	19	11	8	北田 真紀	
8	北上済生会病院	④	024-8506	北上市花園町一丁目 6-8	0197-64-7722	公舎あり	なし	なし	1年	4	0	4	総務課	ji- takahashi@saiseikai- hp.or.jp
									2年	4	1	3	高橋 いづみ	
9	岩手県立中部病院	⑤	024-8507	北上市村崎野17-10	0197-71-1511	公舎あり (要相談)	なし	なし	1年	10	8	2	事務局次長	y-akira@pref.iwate.jp
									2年	10	10	0	吉田 朗	
10	岩手県立胆沢病院	⑥	023-0864	奥州市水沢区字龍ヶ 馬場61	0197-24-4121	公舎あり	なし	なし	1年	10	8	2	臨床研修センター	isawarinsyoukensyu@y ahoo.co.jp
									2年	8	6	2	高橋 真理子	
11	岩手県立磐井病院	⑦	029-0192	一関市狐禅寺字大平 17	0191-23-3452	公舎あり	なし	なし	1年	12	6	6	総務課総務係	kazuhiko-takahashi @pref.iwate.jp
									2年	8	5	3	高橋 和彦	
12	岩手医科大学附属病院	①	020-8505	盛岡市内丸19-1	019-651-5111	なし	なし	なし	1年	35	7	28	医師卒後臨床研修センター	resident@j.iwate- med.ac.jp
									2年	35	12	23	吉田 政一	
計									248	136	112			

いわてイーハトーヴ臨床研修病院群



①岩手医科大学
附属病院



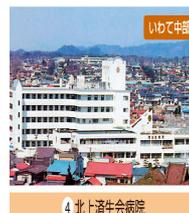
②盛岡赤十字病院



③県立中央病院



④北上済生会病院



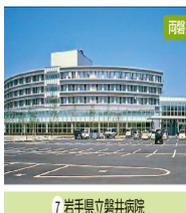
⑤県立中部病院



⑥県立胆沢病院



⑦県立磐井病院



⑧県立大船渡病院



⑨県立釜石病院



⑩県立宮古病院



⑪県立久慈病院



⑫県立二戸病院



【いわてイーハトーヴ臨床研修病院群とは】

医師臨床研修のワーキンググループとして、岩手県内各臨床研修指定病院の指導を担う医師が集まり、全国的に先駆けて臨床研修を全県で調整するグループとして平成16年7月から開始しました。

- 1) 地域背景や経営母体を超えて、良き医師を養成する。【良医育成】
- 2) 研修医にとってベストの研修プログラム、ベストの教育環境を構築する。【研修医中心】
- 3) グローバル・スタンダードに基づく、プライマリー研修を実践する。【初期診療重視】
- 4) 研修医と共に医療の質を向上する。【共に学ぶ】

という基本理念のもと、設立母体を超えて臨床研修病院同士の連携を図ってきました。これまでの緊密な連携のもと、2011年度からは、自由研修期間に、研修医が県内12の基幹型研修病院のどこでも研修できる「全12病院相互乗り入れプログラム」がスタートしました。

(平成24年度WGメンバー)

代表者	田村乾一	県立中部病院	小笠原敏浩	県立大船渡病院	松本登	県立胆沢病院
副代表者	谷田達男	岩手医科大学病院	中野達也	県立大船渡病院	郷右近祐司	県立胆沢病院
	高橋弘明	県立中央病院	遠藤秀彦	県立釜石病院	加藤博孝	県立磐井病院
	村井啓子	盛岡赤十字病院	遠野千尋	県立釜石病院	横沢聡	県立磐井病院
	勝又宇一郎	県立胆沢病院	酒井明夫	岩手医科大学病院	佐藤耕一郎	県立磐井病院
顧問	堀内三郎	岩手医科大学	米澤久司	岩手医科大学病院	佐藤昌之	県立二戸病院
構成員	阿部正	県立久慈病院	諏訪部章	岩手医科大学病院	赤坂俊樹	県立二戸病院
	宗像秀樹	県立久慈病院	臼田昌広	県立中央病院	斎藤雅彦	盛岡赤十字病院
	下沖収	県立久慈病院	佐々島朋美	県立中央病院	佐々木昭人	北上済生会
	佐藤元昭	県立宮古病院	北村道彦	県立中部病院		
	菅原俊道	県立宮古病院	曾根克明	県立中部病院		
	伊藤達朗	県立大船渡病院	赤松順寛	県立中部病院		

【被災地における地域医療研修プログラムの概要】

- ・ 外来診療を中心に日当直業務にも従事すること。
- ・ 受入医療機関の状況に応じて、公衆衛生活動等（沿岸被災地での医療・介護・福祉及び避難所でのサーベランス）にも従事することもあること。
- ・ 受入医療機関の指導医の指示に従い、地域ニーズに密着した医療を経験するものであり、必ずしも沿岸被災地域での医療に従事するとは限らないこと。

【研修実施期間】

- ・ 1ヶ月以上を原則とするが、状況により調整可。

【目標・方略・評価】

◇G10（一般目標）

地震・津波で被災した地域の患者さんを含めた住民に、全人的かつ包括的な医療・保健・介護・福祉を提供するために、地域の実地臨床のみならず、保健・介護・福祉をも実践するための知識・技能・態度を身に付ける。

◇SB0s（行動目標）

1. 被災地の地理的状況・交通手段・その時点での医療状況の全体像を把握する。【態度】
2. 派遣先において、関連するスタッフと連携・情報の共有ができる。【技能・態度】
3. 外来一般診療で、患者・家族の事情に配慮しながら、適切な病歴聴取・身体診察ができる。【技能・態度】
4. 総合医療の基本を理解し、患者や家族のニーズを汲み取りながらコミュニケーションを重視した診療ができる。【知識・技能・態度】
5. 派遣先の診療機能に応じた基本的一般検査・緊急検査ができる。【技能・態度】
6. 診療録を過不足なく記載する。【知識・技能・態度】
7. 一般的に多く見られる疾病について、原因・予防策等を住民に説明する。【知識・技能・態度】
8. 救急患者を診察し、患者の状態を判断して、入院が必要な場合には後方病院に転送する。【知識・技能・態度】
9. 予防接種の対象疾患・方法・目的・副作用等を理解し、必要に応じて実施する。【知識・技能・態度】
10. 地域・学校保健活動に参画し、保健福祉との連携を理解する。【態度・知識】
11. 介護保険を理解し、介護保健施設との連携を図る。【知識・技能・態度】
12. 指導医とともに在宅医療に従事する。【知識・技能・態度】
13. 保健師の活動に同行し、地域での保健福祉活動に参加する。【態度】
14. 保健師ミーティングに参加する。【態度】

◇LS（研修方略）

LS	方法	SBOs	実施場所	媒体	人的資源	時間	時期
1	ミニレクチャー	1-13	受入病院内	資料に基づくプレゼンテーション	研修実施責任者 指導医	6時間	初日
2	自己学習	3-11	自宅・病棟・外来・医局	テキスト マニュアル インターネット	自己	2時間	毎日
3	OJT	1-14	病棟・外来・患者宅・その他施設	患者・住民 スタッフ	すべてのスタッフ	勤務時間	毎日
4	カンファレンス・ミーティング参加	2,14	受入病院内	カンファレンス ミーティング	上級医 看護師 (保健師)	30 ～60分	週 1～2回

◇研修スケジュール（一例）

時期	時間帯					
	8:30-9:00	9:00-12:00	12:00-13:00	13:00-16:00	16:00-17:15	17:15-
研修初日	オリエンテーション・ミニレクチャー(被災地の地理的状況・交通手段・地域の医療状況の把握)・被災地の基幹病院訪問・保健所訪問					カンファレンス・歓迎会
2日目～	ミーティング	外来診療	昼休み	訪問診療・保健師活動同行・介護施設訪問・学校保健活動等	カンファレンス	看護師・保健師ミーティング
毎週木曜日	ミーティング	外来診療	昼休み	研修実施責任者とのミーティング・情報交換	カンファレンス	
最終日	ミーティング	外来診療	昼休み	訪問診療・保健師活動同行・介護施設訪問・学校保健活動等	研修医プレゼン・懇談会	移動

◇研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時間	方法
1-14	形成的	知識・技能・態度	指導医・看護師（・保健師）	研修終了時	評価表（別表）
1-14	形成的	知識・技能・態度	指導医・看護師（・保健師）	研修終了時	レポート

◇研修実施責任者

病院名	氏名	
岩手県立大船渡病院	小笠原 敏浩	おがさわら としひろ
岩手県立釜石病院	遠野 千尋	とおの ちひろ
岩手県立宮古病院	菅原 俊道	すがわら としみち
岩手県立久慈病院	宗像 秀樹	むなかた ひでき
岩手県立二戸病院	佐藤 昌之	さとう まさゆき
盛岡赤十字病院	村井 啓子	むらい けいこ
岩手県立中央病院	高橋 弘明	たかはし ひろあき
北上済生会病院	佐々木 昭人	ささき あきひと
岩手県立中部病院	田村 乾一	たむら けんいち
岩手県立胆沢病院	勝又 宇一郎	かつまた ういちろう
岩手県立磐井病院	佐藤 耕一郎	さとう こういちろう
岩手医科大学附属病院	谷田 達男	たにた たつお

地域医療研修（被災地研修プログラム）研修医評価表
 （指導医・看護師・コメディカル・自己評価）

「別表」

研修医氏名	研修科	研修期間			
		年 月 日～		年 月 日	

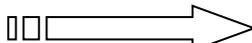
◆社会人・プロフェッショナルとして		秀逸	←	医療人と して普通	→	要改善	評価不能
		5	4	3	2	1	
1	患者、家族への思いやり						
2	上司との協調性						
3	同僚との協調性						
4	コメディカルとの協調性						
5	コメディカルに対する指示が適切						
6	時間、約束の厳守						
7	マナー、挨拶、言葉使い、身だしなみ						
8	責任感、誠実性						
9	積極性、行動力、勤勉性						
◆医学的側面		秀逸	←	医療人と して普通	→	要改善	評価不能
		5	4	3	2	1	
1	基本的な医学知識・Common disease の理解						
2	基本的な医療技術						
3	標準予防策を基礎とした感染予防策の実施						
4	病歴聴取の正確さ・手際よさ						
5	身体所見の取り方						
6	鑑別診断の能力						
7	プレゼンテーション能力						
8	医療技術の習得						
9	報告・連絡・相談をしているか（突っ走りはないか）						
10	問題点の把握と解決能力（文献検索能力を含む）						
11	患者・家族とのコミュニケーション能力・適切なインフォームドコンセント						
12	診療録の要約のまとめかた，迅速性						
13	カンファランス，会議，勉強会への参加						
14	発表，レポート，論文などの作成						
◆総合評価							
◆フリーコメント（必須）							
※形式的評価を！（negative のみにならないように）健康状態・その他問題点なども含めて							
◆評価者：				（指導医・看護師・コメディカル・自己）		◆評価日： 年 月 日	

※研修終了時に研修実施責任者あて提出ください。（提出日： 年 月 日）

送付日： 年 月 日
 病院名：

いわてイーハトーヴ臨床研修病院群 研修医(地域医療研修)受入可能状況報告書

岩手県内各基幹型臨床研修病院



いわてイーハトーヴ臨床研修病院群受付

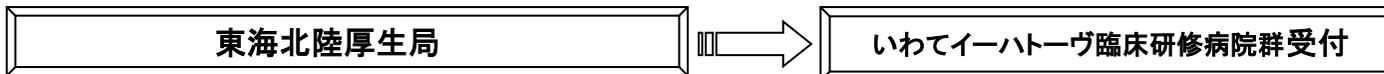
通番	病院名	受入可能人数(H 年度)												備考	
		年次	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月
1	岩手県立大船渡病院	2													
2	岩手県立釜石病院	2													
3	岩手県立宮古病院	2													
4	岩手県立久慈病院	2													
5	岩手県立二戸病院	2													
6	盛岡赤十字病院	2													
7	岩手県立中央病院	2													
8	北上済生会病院	2													
9	岩手県立中部病院	2													
10	岩手県立胆沢病院	2													
11	岩手県立磐井病院	2													
12	岩手医科大学附属病院	2													
計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

注1) 2年次研修医の受入可能人数を記入すること。

注2) 受入可能人数に変更があった都度、本書により報告すること。

注3) 受入可能日等が月途中となる場合又は、その他必要事項について、備考欄に記入すること。

派遣病院リスト



受付順位	ふりがな 病院名	派遣者				派遣希望期間(H 年度)												備考	いわてイーハトーヴ臨床研修病院群使用欄		
		年次	ふりがな 氏名	年齢	性別	指定 なし	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			3月	
例	あいちけんりつ いわてびょういん 愛知県立岩手病院	2	ほくりく たろう 北陸 太郎	26	男	○						3~	~2						宿舎不要(自宅あり)		
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					
6																					
7																					
8																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					

注1) 派遣希望期間をしない場合は、当該欄に○印を付すこと。この場合、派遣時期を指定しない1ヶ月間とみなすこと。
 注2) 派遣開始又は修了日が月途中になる場合には、当該月欄に補記すること。
 注3) その他必要事項について備考欄に記載すること。
 注4) 記載欄が不足した場合には、適宜追加すること。
 注5) 受入決定および調整の連絡については、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群(岩手県医師支援推進室)が行う。

